

令和4年度 事業報告

第1 公益目的事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究と、その指導法及び作詩法の研究指導機関としての役割を全うするため、新型コロナウイルス拡散という厳しい状況下ではあったが、検温・消毒・マスク着用等の感染防止対策を講じ、広く吟道指導者を育成指導し、不特定多数の者に吟道の普及振興を図ることを目的として、以下の公益目的事業を行った。

1 吟道に関する研修会、講習会及び大会の開催

一 研修会・講習会

(1) 日本吟道夏季大学講座

公1-1

詩歌吟詠法及び作詩の理論と実技の指導のため、次の通り開催した。会場受講以外に、オンラインによる受講、視聴覚教材（ブルーレイ）を活用した講座とした。

令和4年8月24日（水）及び25日（木）の2日間

東京都江戸川区 タワーホール船堀

参加人員 400名

(2) 中国国際詩歌節

公1-3

「第34回馬鞍山李白詩歌節中日詩吟交流大会」にリモート参加し、中国の漢詩のより深い理解に努め日中友好を図る予定であったが、同国のゼロコロナ政策等により中止となった。

(3) 地区吟道講習会

公1-4

詩歌吟詠に関する研鑽を深め広く吟道を普及するため、各地区が主体となり講習会の計画を立て、下記の通り開催した。

① 北関東地区

令和4年12月4日（日） 群馬県渋川市 渋川子持会館

② 千葉・茨城地区

令和5年2月4日（土） 東京都葛飾区 新小岩地区センター

③ 東京地区

令和5年3月10日（金） 東京都江戸川区 小松川区民館

④ 神奈川・山梨地区

令和5年2月23日（木） 神奈川県 横浜市社会福祉センター

⑤ 三重地区

令和4年7月24日（日） 三重県鈴鹿市 ふれあいセンター

⑥ 南部九州地区

令和4年6月26日（日） 鹿児島市 谷山市民会館

以上6地区の参加人員は、延べ418名

(4) 指導者育成推進講習会

(4) — 1 指導者育成推進講習会

公1-5

吟道の全国的普及を図るため、地域における指導者の育成及び指導力の強化を図ることを目的として、全国各地で研修を行った。

① 北海道地区

令和4年9月25日(日) 北海道白老町 白老コミュニティセンター

② 北関東地区

令和4年8月14日(日) 群馬県渋川市 赤城公民館

③ 埼玉・千葉・茨城・東京地区

令和4年11月23日(水) 東京都江戸川区 小松川区民館

④ 神奈川・山梨地区

令和4年8月11日(木) 神奈川県 横浜市社会福祉センター

⑤ 中部地区

令和4年7月31日(日) 岐阜県高山市 高山文化会館

⑥ 北陸地区

令和4年9月18日(日) 富山県射水市 大門総合会館

⑦ 北部九州地区

令和4年7月24日(日) 福岡県北九州市 黒崎コムシティ

⑧ 南部九州地区

令和5年2月5日(日) 鹿児島市 マリンパレスかごしま

以上8地区の参加人員は、延べ530名

(4) — 2 吟道普及実践教室

公1-5

吟道普及実践者としての「真に指導にあたる指導者」を育成するため、本部主導の本格的指導者育成機関として「吟道普及実践教室至誠塾」を開設した。

開講式：令和4年4月13日(水) 修業年限2年間

教室：日本吟道会館ホール

講師：当学院理事長・最高顧問等

塾生：通塾生20名、オンライン塾生13名

今年度の学習単位：22単位(1単位：3時間)

(4) — 3 講師特別錬成会

公1-8

本部役員及び吟士権者の一部を対象とし、理事長等の上級指導者による錬成会を開催した。

令和4年4月9日(土) 東京都文京区 日本吟道会館

講師 林 盛神理事長他6名

受講生 22名(内4名オンライン受講)

二 吟道に関する大会の開催

日頃の吟道精進の成果を披露し、また、他人の吟詠を聴き研鑽に励み吟詠の魅力を広く周知して吟道の普及に資するため下記諸大会を開催した。

(1) 日本吟道全国大会 公1-十

全国の会員を対象に、第72回日本吟道全国大会を開催した。

令和4年6月21日(火) 東京都江戸川区総合文化センター

参加人員 650名

(2) 日本吟道青少年全国大会&壮心の集い 公1-十一・十二

幼少年及び青年を対象に第57回日本吟道青少年全国大会を行った。同時に各地区の壮心大会で選出又は推薦された代表者により壮心の集いを行った。

令和5年3月28日(火) 東京都墨田区すみだトリフォニーホール

参加人員 80名

(3) 日本吟道名吟大会 公1-十三

レベルの高い会員及び会員以外の吟詠家を招いて、会員の吟詠力向上と、一般の人々に対する吟詠の普及を図ることを目的として、第26回日本吟道名吟大会を行った。

令和4年10月12日(水) 東京都江戸川区 タワーホール船堀

参加人員 450名

(4) 日本吟道全国吟詠コンクール決勝大会 公1-十四

全国各地区より選抜された会員による、日本吟道全国吟詠コンクール決勝大会を行った。

令和4年10月12日(水) 東京都江戸川区 タワーホール船堀

参加人員 94名(出吟者)

※ (3) 及び (4) については、同日開催とした。

(5) 日本吟道壮心大会 公1-十二

原則として65才以上を対象に、各地区が主体となって日本吟道壮心大会を行った。

2 吟道に関する普及活動への支援 公2

吟道の普及活動を行うに当たり、全体的に活性化された活動が行われるよう、人的、財政的支援を行った。

一 公認団体の吟道大会の支援

公認団体の周年行事に際して、本部からの役員の派遣及び大会経費の一部助成等の支援

二 地域活性化、吟道普及につながる事業の支援

三 各地の敬老会、養護施設、学校その他への慰問・指導

3 吟道に関する調査研究及び広報事業 公3

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究及びその指導法並びに作詩法の研究・指導機関として、「新世紀の吟詠研究会」を中心とした研究活動を行うとともに、

その成果等については広報誌等を通じて公表した。

一 吟道に関する調査研究

公3—1

詩歌吟詠法及び作詩法に関する研究会

- (1) 新世紀の詩歌吟詠法及び作詩法に関し、吟詠研究会を行った。
- ①令和4年6月26日(日) 東京都文京区 日本吟道会館
 - ②令和4年9月25日(日) 同上
 - ③令和4年12月18日(日) 同上
 - ④令和5年3月19日(日) 同上
- 以上4回の参加人員は、延101名

(2) その他の調査研究

その他、必要に応じて随時調査研究会を行った。

二 広報事業

公3—3

不特定多数の人に吟詠を普及するため、吟道に関する次の広報事業を行った。

- (1) 広報誌「日本吟道」の刊行
- (2) 詩歌吟詠に関する出版物の刊行
- (3) ホームページによる広報活動
- (4) その他、マスコミ、公共団体等を活用した広報活動

第2 収益事業等

公益目的事業を補完し、これを積極的に推進するため、次の収益事業及び共益事業を行った。

1 収益事業

一 吟道に関する教本及び教材並びに物品等の販売

二 段級位、伝位及び師範位の認定

- (1) 吟詠の技術の向上に伴い、段級位、伝位の認定を行った。
- (2) 指導技術の向上に伴い、師範位の認定を行った。

2 共益事業

主として本学院の会員を対象とする次の事業を行った。

一 功労者の顕彰及び表彰

- (1) 吟道発展に寄与し、特に功労顕著な者に冠称を贈り顕彰した。
- (2) 吟道普及に功績のあった公認団体の代表者に対して感謝状を贈り表彰した。
- (3) 吟道普及に功績のあった会員を褒賞した。
- (4) 吟道普及に功績のあった公認団体を表彰した。
- (5) 永年にわたり吟道を研鑽した高齢者を表彰した。
- (6) その他、随時、吟道普及に功績のあった会員を表彰した。

二 正会員吟道大会

正会員を対象として、総会開催時に正会員吟道大会を開催した。

令和4年6月12日(日) 東京都千代田区 主婦会館

三 新春賀詞交歓会

令和5年1月7日（土） 東京都文京区 日本吟道会館

3 その他、目的を達成するために必要な事業

一 記録の制作と保存

本学院の事業等に関する吟詠等を記録保存した。

二 （公財）日本吟剣詩舞振興会主催の下記全国吟詠コンクールに参加した。

令和4年5月5日（木） 東京都北区 北とびあ

三 その他、目的を達成するために必要な事業を行った。

以 上